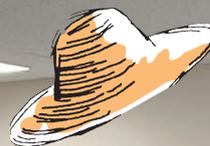


麦わらぼうし



若手農業者研修交流会

若手農業者研修交流会を開催しました

令和7年12月17日に大河原合同庁舎で、村田町で自然農場「風天」を経営する中山建氏を講師に迎え、みやぎ農業未来塾「若手農業者研修交流会」を開催し、管内の新規就農者10名が参加しました。

講師からは、自然農法や自身の就農経験を基に、人とのつながりの大切さや農業を営む上での心構えなどを講話いただきました。

その後、参加者は少人数のグループに分かれ、講義の感想や自身の経営の悩みなどを率直に語り合い、交流を深めました。

普及センターでは、今後も継続して若手農業者間のネットワークづくりの機会を設けてまいります。

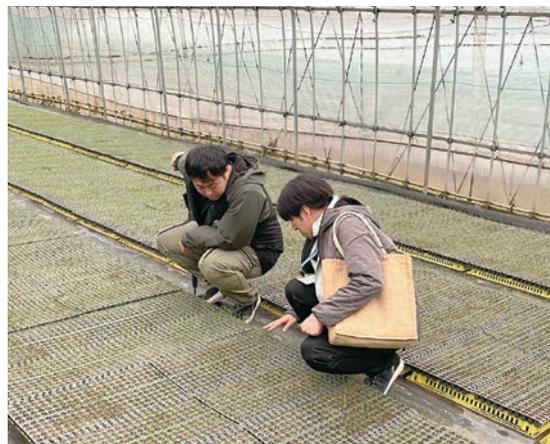
プロジェクト課題の成果

経営継承後の農業法人におけるねぎ、うめの規模拡大と生産性向上

株式会社館島田ファームDerolは、令和6年に農事組合法人から組織変更した角田市の農業法人です。普及センターでは、この法人を対象にねぎとうめの規模拡大に向けた技術指導と、労務配分計画の作成支援を行っています。

今年度は、ねぎの収量向上に向けた育苗と防除、うめの規模拡大に向けた幼木管理等の指導を中心に、栽培技術の向上を図るとともに、役員間での情報共有の場を設け、労務配分計画の作成方法や作業の進捗管理の方法を検討しました。

今後も、さらなる技術向上に向けた適期管理の徹底や労務配分計画の作成と実践について指導を行い、経営の発展と安定化を支援してまいります。



【ねぎの育苗指導】

仙南たまねぎの生産拡大に向けた栽培技術支援

普及センターでは、たまねぎ単収10a当たり3.5tを目標に、JAみやぎ仙南たまねぎ部会員に対する病害虫防除等の生産技術支援や適期作業に向けた情報発信を行っています。

今作は春先の生育量を確保できたほ場が多く、病害虫防除作業の精度も向上した結果、多くの生産者の収量が昨年よりも増加しました。また、新規生産者1名が加わり、既存の生産者と栽培方法を共有することで初年度から高い収量を得られました。

一方、連作に伴い、病害虫や雑草の拡大がみられたほ場では収量が確保できなかったことから、生産者とJAに防除体系の改善を提案するなど、今後もたまねぎの生産拡大を目指して、技術支援と普及を進めてまいります。



【たまねぎほ場巡回】

地域農業の維持・発展に向けた地域計画の作成と実践

村田町菅生地区の地域計画において拡大志向のある土地利用型農業担い手3経営体（生産組合1、個別経営体2）を中心に水稻やえだまめの栽培技術、及び経営の支援を行いました。

3経営体は令和6年度末に策定された地域計画で地域の核となる経営体として位置付けられ、令和7年の水稻作付面積は、地域計画における目標面積に近い面積となりました。今後は農地の集積だけでなく、農地の集約も進むよう、効率的な農業を推進してまいります。



【栽培計画の確認】

集落営農法人による農地整備を契機とした省力化技術の導入・定着

柴田町葉坂地区の担い手である農事組合法人葉坂希望の郷は、省力化技術を取り入れながら水稲と高収益作物栽培に取り組んでいます。

普及センターでは、法人が試行している水稲のドローン湛水直播や今年から本格的に栽培を開始した加工用トマト、後作であるブロッコリーの栽培技術習得を支援しました。併せて、法人の事務作業の省力化を進めるため、営農支援システム活用の研修会を開催しました。

適切な栽培管理により加工用トマトの収量は目標を達成しましたが、水稲収量は目標に届かなかったため、今後は施肥体系の改善に取り組む予定です。また、営農支援システムを作業記録管理に活用できるよう支援してまいります。



【加工用トマト収穫に取りくむ組合員】

特集 令和7年度の水稲作柄について

昨年の登熟期間中の気温は平年と比較すると高温で推移しましたが、玄米品質への影響が現れたのは出穂が極端に早い一部のほ場や高温に弱い品種等と限定的でした。しかし、仙南地域では大型のクモヘリカメムシの発生が県内他地域と比べて非常に多く、斑点米被害粒率の増加が落等原因となり、管内の1等米比率は84.5%となりました（JAみやぎ仙南管内、令和7年12月11日現在）。

高温に対応する技術対策としては、堆肥や土づくり肥料の施用、晩期栽培と晩生品種・直播栽培の導入等が挙げられます。また、出穂後の高温が予想される場合は飽水管理が有効です。さらに、斑点米カメムシ対策には穂揃期とその7-10日後の2回防除を徹底し、上位等級米を生産して収入の安定と向上を目指しましょう。

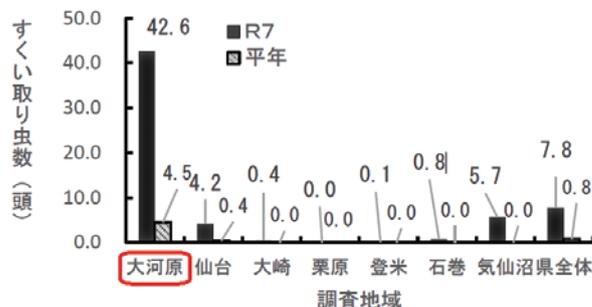


図 クモヘリカメムシの地域別すくい取り虫数（8月中旬）
（令和7年宮城県病害虫防除所）

話 題

「さつまいも」の生産に関する研修会を開催しました

令和7年11月19日に「仙南地域における水田を活用した露地園芸品目拡大推進研修会」を開催し、管内の生産者を中心に約60名が参加しました。

研修会では、株式会社やまもとファームみらい野の馬場氏よりさつまいもの生産体系や成長戦略について、管内の実践事例として川崎町の農事組合法人ふるせきファームの岡田氏からほ場整備を契機としたさつまいもの取組について、それぞれ講演いただきました。

普及センターからは、さつまいも等についての栽培方法の注意点や管内の取組報告を行いました。管内のさつまいも作付け面積は今後さらに増える見込みであることから、引き続き栽培に取り組む生産者を支援してまいります。

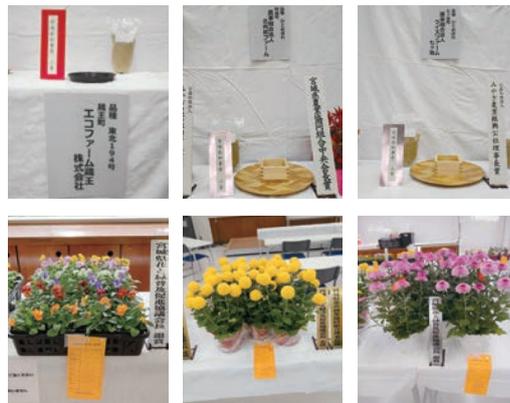


宮城県農林産物品評会（うるち玄米部門）・花き品評会受賞者一覧

令和7年度農林産物品評会と花き品評会が行われ、管内では下記の方々が受賞されました。

【農産物品評会、花き品評会】

| 受賞名 | 入賞者（敬称略） | 品種・品目 |
|---------------------------------|----------------------|--------|
| 宮城県知事賞2等 宮城県農業協同組合中央会代表理事会長賞 | 農事組合法人 北向結ファーム | ひとめぼれ |
| 宮城県知事賞2等 公益社団法人みやぎ農業振興公社理事長賞 | 農事組合法人 ライスファームセケ宿 | ひとめぼれ |
| 宮城県知事賞3等 | エコファーム蔵王 株式会社 | 東北194号 |
| 金賞・宮城県花卉商業協同組合理事長賞 | 柴田町 山家 裕一 | ポットマム |
| 銀賞 | 柴田町 大沼 初枝 | ポットマム |
| 銀賞 | 川崎町 佐藤 由喜 | ビオラ |



【品評会受賞の出展品】

受賞された皆様おめでとうございます。また、品評会に御参加いただきました多くの皆様、誠にありがとうございました。

女性農業者等ステップアップ講座を開催しました

令和7年11月28日と12月3日の2回にわたり、大河原合同庁舎において、管内の女性農業者や農業後継者を対象に、松井未史氏（キノミ代表）を講師に迎え、「農畜産物・加工品等販売や取組み等の情報発信」をテーマに、魅力を伝えるための手法について研修しました。

講義では、伝えたい内容の明確化とどのように伝えるか等の企画が最も重要であること、実際にパンフレットやブログ等に載せる写真の撮影の仕方と構図があること、動画シーンの組み立て方等を教示いただいた後、動画作成に向けたコンテシート作成等の演習を行いました。参加者は、SNS投稿経験者や未経験者様々でしたが、今後活用していくと好評でした。



グリーンな栽培体系加速化事業検討会を開催しました

持続的な食料システムの確立に向け、化学肥料の低減や省力化が求められていることから、家畜堆肥の施用によって、化成肥料を減らした環境への負荷が少ない米づくりが注目されています。

そこで、令和7年12月12日に角田市において、グリーン米研究会（株式会社面川農場、普及センター他）はグリーンな栽培体系加速化事業検討会を開催しました。農業関係者等34名が参加し、豚ふん堆肥を活用した水稻生産、栽培支援システム活用のメリットについて学びました。また、フレコンハンガー付きGPSブロードキャスターを用いた豚ふん堆肥散布方法等を学びました。

今回の検討会を契機に豚ふんをはじめ、牛ふんや鶏ふんなど有機物由来の堆肥が広く活用されることが期待されます。



発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)
電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138
e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp
H P <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>

